

平成生まれが新成人に



1月10日、市文化センター大ホールで成人式が行われました。
 対象者のすべてが平成生まれとなった平成22年の成人式には、452人が出席しました。(対象者551人)
 成人式は実行委員の吹野友美さん、三次紗耶さんの司会進行により滞りなく執り行われ、三次市長が主催者を代表してあいさつし、引き続き実行委員長の中橋杏奈さんが成人者代表あいさつを行いました。



～成人式は、各中学校から推薦された中から35人が実行委員となり企画・運営を行いました～

実行委員会は11月から計3回開催され、成人式当日の役割分担やアトラクション、また記念誌作成等の打ち合わせを行いました。特に、記念誌等の作成のためには出身中学校ごとに休日等にも集まり、思い出がいっぱい詰まった記念誌を作成しました。



▲完成した記念誌



▲実行委員の皆さん

◀実行委員会の様子

はたちの主張



岡崎 幸太さん

私は、成人式を迎えるにあたって「大人」とは何かを考えました。「大人とは何か？」と問うと、一人ひとりの答えは違うと思いますが、私の考える「大人」とは、誰にも頼らず自分のことは自分でやること・・・一言で言うと、自立することではないかと考えました。また、自分の意思を素直に主張し、自分という芯を持った人が大人だと思います。

成人になると、自分の行動に今まで以上の責任が生まれます。しかし、その責任を果たし、一つ一つの壁を乗り越えれば、より強くなった自分に出逢えます。壁とは自分自身に与えられた試練で、決して甘くはありませんが、私の考える大人になるためにはなくてはならないものです。これから先の人生において、いくつの壁があるかは分かりません。しかし、その壁から逃げていてはいつまで経っても成長できません。いつでも真正面からぶつかり、何度も壁を越えればおのずと光が見え、自分の道が拓けてくると思います。自分を信じ、誰からも認められる大人になるのが私の夢であり目標です。

私は今、社会的にも精神的にも成長している途中ですが、成人式を迎えるまで、私の力になってくれた家族、友達、全ての方々に感謝します。

私達はまだまだ未熟で、日々勉強していかなくてはなりません。多くの方々に迷惑をかけます。そんな中で、常に感謝の気持ちを持ち、謙虚な姿勢で人と接することが大切だと思います。

最後に、今日この場所でここにいる皆様と成人式を迎えられたことを誇りに思い、自分の考える本当の意味の大人になります。

私には、二十歳になってから出会った好きな言葉があります。陶淵明の『帰去来』という詩の一節です。

「どうしてくよくよと独り悲しむことがあろう。過ぎてしまった時は戻らないことを知り、まだ来ない時は追い求めることが出来ると知る。道に迷ったとはいえ、まだ遠く離れた訳ではない。今の私が正しくて昨日の私が誤りであったと知る。舟は揚々として波の上を行き、風は颯颯として私の袖を翻らせる。旅人にこれからの道先のさまを訪ねて、夜明け前の薄暗さが残念に思われる」というものです。私がこの世の中とかかわり始めて、20年が経ち、私は様々な選択をしながら生きてきました。自分の選択に希望や自信を持ちつつも、ふと振り返ると、不安に思うことは少なくはありませんでした。

私は、中学から始めた吹奏楽を今でも続けていますが、吹奏楽を続けてきた9年間のことを後悔しそうなときがあります。確かに、そこから得たものはほんとうに計り知れません。でも、辞めていれば、こんな苦しい場面に出くわすことはなかったのに、もっと別に有意義な9年間を過ごすことができたのではないかと、思うこともありました。

今、私は大学に進学し、教員になるべく教育学部で学び、その道へ歩み始めています。ですが、そこで学びを深めるにつれて、自分は教員に向いていないのではないかと思ったり、教育の暗いニュースを聞くと、教壇に立つことについて不安になって、この選択を後悔しそうになります。

二十歳になった最近、私は選択の重さを感じ、自分で選択することに臆病になることがあります。そんな時に、先の言葉を思い出すと、明るい気持ちになれるのです。たとえ、今までの自分の選択が間違っていたとしても、今から私の過ごそうとする時は、昨日までの自分を糧に新たな自分を作っていくという思いになれるからです。二十歳になる前の自分も、二十歳になってからの自分も、基本的には変わってないでしょう。ですが、この言葉を知ったという点において、私の心の有り様は変化することができました。

最後に、20年の間、私の選択に関わりをもってくれた家族や、たくさんの先生方、友人に感謝します。



粕谷みのりさん